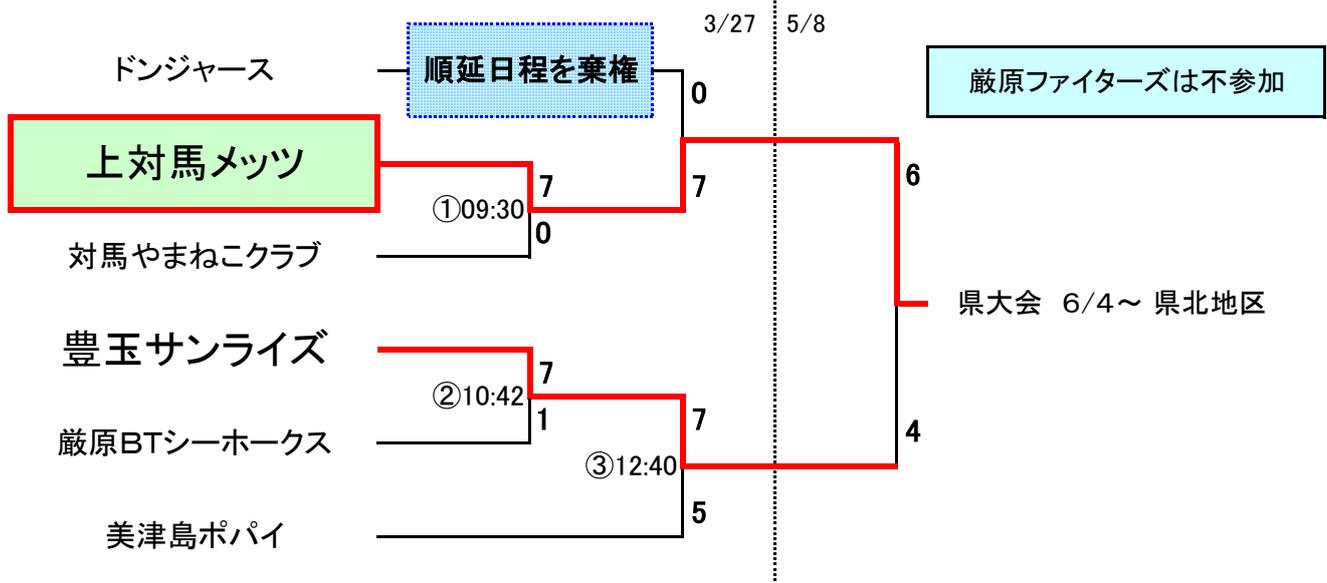


3月20日が雨天により順延



【一回戦】① 1時間02分

対馬やまねこクラブ	000 00	0	【本】板井
上対馬メッツ	241 0X	7	

やまねこは初回に先制機を逸した。一死後連安打で一塁とし中軸に期待が持たれたが、敢え無く三振と投飛。二回には反撃機を迎えた。先頭の渡辺が中前に落とし、送りバントが捕飛で好機を逸したかに見えたが続く吉本が左前に弾いてチャンスを広げた二死一塁に柴田が中前に落とした。三塁を回った渡辺はスライディングも空しく本塁で憤死した。

点差は7点と開いたが得点への執念に燃えるやまねこは、四回一死後に敵失と山城の左前打で一塁としたが後続が倒れ無念の五回コールドで敗戦した。

上対馬メッツは前年の同予選会での覇者。初回に板井の右越えランニング2ランで先制し、尚も二死後に平間以下の3連打で満塁としたが、ここは追加点成らず。だが二回に四球を足場に武南の安打に死球の無死満塁で板井が右線2点打。米田も中前に転がして二者を還し加点した。

【対馬やまねこ】打安点球 【上対馬メッツ】打安点球

⑥柴田 孝文 3 1 0 0	④1武南 優司 3 2 0 0
⑦阿比留昭実 3 1 0 0	①2小島 圭祐 1 0 0 2
①5中庭 貢 3 2 0 0	③14板井 将之 3 2 5 0
②原田 初見 3 0 0 0	⑥米田 周市 3 1 2 0
④吉田 栄 2 0 0 0	②3扇 則昭 3 2 0 0
⑧渡辺 博美 2 1 0 0	⑤平間 友則 3 1 0 0
③山城 啓資 2 1 0 0	⑨白浜 恒之 2 2 0 1
⑨吉本 誠一 2 1 0 0	⑧松村 克広 3 0 0 0
⑤1阿比留善雄 2 0 0 0	⑦部原 敏貴 1 0 0 1
犠0振2残7 22 7 0 0	犠0振1残7 22 10 7 4

【審判:波田正嗣、田口憲一、黒岩隆樹、藤島隆之(ポパイ)】

三回には代わった阿比留投手に先頭の武南が内野安打で出ると二、三盗と搔き回し板井の二塁ゴロで本塁をついて7点目を挙げ、コールド勝利を決定付けた。

【一回戦】② 1時間38分

豊玉サンライズ	011 010 4	7	【二】井上、吉田
厳原BTシーホークス	001 000 0	1	神宮

サンライズが好機に適時打が出て着実加点した。先取点は二回、四球走者の小島が二盗後の二死から築城の一塁内野安打が送球ミス誘った間に生還。三回は井上の三塁線突破の二塁打がバーク三進後に津屋の左前適時打。五回は左前打の村瀬が三進した二死後に井上が中前にライナーで弾き、七回には先頭から死球と犠打失策に村瀬の内野安打で無死満塁とし途中出場の吉田が左越えエンタイトル二塁打。さらに四球があった満塁に津屋が左前打し二者を還し7点目を挙げた。

対するシーホークスは初回先頭が四球と二盗の無死二塁を投飛併殺で逸した。その後二者連続の四球を得たので、ここはじっくり攻めるべきではなかったか。その後も二回を除き毎回の四死球を得て塁を賑わしたが、実となったのは三回敵失からの二死一塁で神宮が放った左越え適時二塁打だけで、走者を置いての快音が聞かれずに10残塁を喫した。

【豊玉サンライズ】打安点球 【厳原BTシーホークス】打安点球

⑧阿比留寿也 1 0 0 1	⑧小島 亮一 2 0 0 2
8吉田 周平 2 1 2 0	⑥多田 直樹 4 0 0 0
⑥井上 誠一 2 2 1 2	②神宮 保夫 2 1 1 2
④1津屋 敏彦 4 2 3 0	⑨中山 貴美男 1 0 0 2
⑨安藤 智教 2 0 0 0	H中屋 雄樹 1 0 0 0
3松井 直輝 2 0 0 0	⑤原口 大輔 2 0 0 1
⑦波多野 健一 4 0 0 0	H阿比留竜馬 1 1 0 0
⑤小島 剛 3 0 0 1	①早田 光治 3 0 0 1
③9中嶋 佳祐 2 0 0 1	③植木 亮次 4 0 0 0
①4築城 公則 2 1 0 0	④橋井 純太 3 0 0 0
②村瀬 新吾 3 2 0 0	⑦中庭 一穂 1 0 0 0
犠1振6残5 27 8 6 5	7洲上 泰光 0 0 0 2
	犠0振6残12 24 2 1 10

【審判:原田、山城、吉本、柴田(やまねこ4名)】

【準決勝】③ 1時間36分

豊玉サンライズ	411 000 1	7
美津島ポパイ	302 000 0	5

【三】波多野、吉田

【二】中尾

サンライズが逃げ切った。初回到連続敵失と吉田の安打でつかんだ二死満塁を波多野の左越え三塁打で一掃し、三ゴロ悪送球で4点目を挙げると、二回には安打で出た築城が二盗後に又も内野ゴロ悪送球で還る。三回には先頭で出た波多野が二三盗を決めて小島の右前適時打で加点した。

ポパイも負けられない一戦。初回到先頭村瀬の安打を口火に四球や敵失に、2個の暴投で三走者が還って反撃。三回にも四球後の一死三塁に中尾の右中間二塁打に内野ゴロ悪送球で生還の2点を挙げて1点差まで追いついた。

五回のポパイは先頭の田中が安打。続く中尾も中前に弾いたが当たりが強すぎ二封されセンターゴロで同点機を逸した。

サンライズは七回到死球を得た築城が二盗も決め吉田の左越え三塁打で還ってダメ押しをした。

【決勝】 開始10:02 所要1時間44分

上対馬メッツ	000 130 2	6
豊玉サンライズ	100 111 0	4

【本】吉田

先制したのはサンライズ。初回到二死後に吉田がセンター頭上を越えるランニング弾。同点とされた四回には死球の一死二塁に三振の振り逃げで一塁送球の間に三塁を回った井上が本塁を突き間一髪セーフで再びリードした。五回到2点差とされたがその裏には四球と小嶋が安打した一三塁に暴投で還り、六回到先頭・阿比留の安打と敵失などの二死一二塁に重盗をかけると捕手悪送球を誘って同点に追いついた。

大会2連覇に燃えるメッツは四回一死三塁に河本の中前打で同点に。五回到二死後に平間の安打と死球から小宮、河本の連続適時打に敵失で逆転したが、五、六回到バッテリー・エラーにより試合を振り出しに戻された。

最終の七回、メッツは一死後に平間が安打。小島の二飛が失策を招いて小宮の安打で満塁。ここで当り屋の河本が中前に転がして二者を迎え入れシーソーゲームにケリをつけた。

豊玉サンライズのチーム名になった平成7年以来、高松宮杯2部予選会の決勝進出したのは二度目(前回は平成20年)だったが今回も無念の敗戦。

対する上対馬メッツは平成2年に連盟登録し4年と5年の2部予選会で優勝。平成8年から5年間(~12年)B級登録だったが、その間に1部での優勝は無く、13年の高松宮杯2部で三度目の代表。二度目の県大会に続いてのベスト4だった。翌14年に再びB級昇格したが7年間のBクラスを経て、21年にCクラス降格。22年の2部代表に続いて2年連続5回目の高松宮杯2部県大会だが、今回は真価が問われる。

なお、2年連続で高松宮賜杯2部代表になったことで来年は三度目のB級昇格となり、その代わりBクラスから1チームが降格しなければならない。そのチームはシーズン最後の対馬選手権の結果次第となる。

【豊玉サンライズ】 打安点球

⑥井上 誠一	4 0 0 0
④築城 公則	2 1 0 1
①津屋 敏彦	4 0 0 0
⑧吉田 周平	3 2 1 1
③松井 直輝	3 0 0 0
H3安藤 智教	1 0 0 0
⑦波多野 健一	3 2 3 0
⑨中嶋 佳祐	3 0 0 0
⑤小島 剛	3 1 1 0
②村瀬 新吾	3 0 0 0

犠1振11残4 29 6 5 2

【審判：神宮保夫ほか

B Tシーホークス4名】

【美津島ポパイ】 打安点球

⑥村瀬 恵二	4 1 0 0
⑧田口 憲一	0 0 0 2
93小島 一輝	1 0 0 1
⑤2田中 健一	3 1 0 1
①中尾 寿憲	4 1 1 0
③江嶋 潔	2 0 0 1
9田口 功二	1 0 0 0
⑨近藤 俊壱	1 0 0 0
H8小島 秀隆	2 0 0 0
⑦石橋 隆弘	3 0 0 0
④嶺 桂太	3 1 0 0
②波田 正嗣	1 0 0 1
H5黒岩 隆樹	1 0 0 0

犠0振5残6 26 4 1 6

【上対馬メッツ】 打安点球 【豊玉サンライズ】 打安点球

⑨板井 将之	3 0 0 0
H梅野 恭平	1 0 0 0
9松村 克広	0 0 0 0
④平間 友則	4 2 0 0
⑤小島 圭祐	3 1 0 1
⑦6小宮 光	4 2 1 0
③河本 法満	3 3 4 0
⑧浦崎 亮真	4 1 0 0
⑥1財部 晃	4 0 0 0
②扇 則昭	3 0 0 0
①米田 周市	2 1 0 0
H原 泰彦	1 0 0 0
7岡田 司	0 0 0 0

犠1振4残7 32 10 5 1

【審判：築城貴憲、阿比留洋五、小山信之、中島洗祐】

個人表彰で最優秀選手賞を受けたのは、決勝戦で送りバント後に3安打し全てが打点付き。七回は決勝の2打点を叩き出した河本法満。優秀選手は2試合通じて3安打の平間友則。敢闘賞には七回を粘投したが最後は報われなかった小嶋忠志と、一回戦のやまねこ戦でランニング本塁打を放った板井将之。

打撃賞は一回戦の敵原シーホークス戦でエンタイトル二塁打、準決勝の美津島ポパイ戦は三塁打を含む2安打。そして決勝戦ではランニング本塁打など3安打で合計8打数6安打(、750)の吉田周平が他選手を断然引き離す高打率で受賞した。

高松宮賜杯全日本軟式野球大会について

昭和21年8月に全日本軟式野球連盟が設立され、その組織も着実に確立されると加盟チームも年々増加していったが、多くのチームの間には技量の差が当然のように出てきた。

そこで連盟では昭和25年からチームの登録をA、B、Cの級別に分けて各都道府県では級別の大会を持つように指導した。この結果、各支部では従来的一般大会(級別に関係なく)の他に、各級別大会とチームのレベルに応じた大会を実施するようになった。30年には北海道から九州までの9ブロックでB級とC級のブロック大会が一斉に開始された。32年にはB級とC級の第1回全国大会が群馬県で開催され、名称を『全日本選抜軟式野球大会』とした。同時にB級を1部、C級を2部とし参加チームは両部とも各ブロック代表と開催地の10チームだった。

この競技人口の多い1部と2部大会発展のため、34年に天皇陛下の弟君である高松宮宣人親王殿下から高松宮杯が下賜され、第3回北海道大会から優勝チームに授与されるようになった。このため大会の名称も改められて38年第7回大会から『高松宮賜杯全日本軟式野球大会』と呼ばれるようになり、40年京都大会から参加チームが両部とも16(九州から2)になり、更に平成元年の第33回大会からそれぞれの部を32チームと倍増し、従来は両部が同一開催地であったのを分離開催とした。

九州枠(沖縄県は単独)は7県のうち4枠で、7年に一度回ってくる九州ブロック大会の開催県は県代表がそのまま全国へ。残り6県で3枠を争っている。但し九州地区で全国大会開催の場合は開催県枠が4。残り6県で4枠の計8チーム(沖縄は除く)が九州からの参加となるが長崎県で開催するのは野球場の問題から現段階では夢物語である。

※近年の高松宮賜杯2部の決勝戦戦績		県大会の結果
52年	上対馬漁協 ★全国優勝★ 県 3-0 朝長時計店(長崎) 3-2 有川クラブ(上五島) 9-0 上五島ブローズ 九州 8-0 有田白嶺(佐賀) 4-3 国東クラブ(大分) 全国 8-1 札幌市水道局(北海道) 8-4 岸和田市役所(大阪) 7-4 ニューモンスター(鳥取) 3-1 河合楽器ファイターズ(静岡)	
53年	豊玉クラブ	2-4 松浦クラブ(松浦)
54年	航空自衛隊	0-8 電源開発(西彼)
55年	〃	雨天順延棄権 今福メッツ(松浦)
56年	豊玉クラブ	4-10 小長井クラブ(北高)
57年	電電佐賀野球部	4-5 国見クラブ(南高)
58年	豊玉コメッツ	4-3 九電上五島 4-1 安中クラブ(島原) 【準】6-7 崎山クラブ(福江)
59年	〃 3-1 厳原ファイターズ	5-9 吉井クラブ(県北)
60年	〃 3-1 美津島シャドウズ	1-3 諫早市役所
61年	美津島ポパイ 13-6 峰スターズ	7-0 森山クラブ(北高) 3-2 パンヤース(上五島) 【準】1-3 九電長崎支店
62年	〃 8-4 厳原シーガルス	8-1 吉井クラブ(県北) 5-4 有家クラブ(南高) 【準】1-8 健友クラブ(島原)
63年	〃 2-1 〃	1-6 島原市役所
元年	豊玉コメッツ 2-0 美津島マーシャルズ	0-2 諫早市役所 ◆対馬で開催◆
2年	上対馬ライオンズ 4-3 美津島ポパイ	6-0 ホニータール(松浦) 3-0 波佐見ローズ(東彼) 2-0 千々石町(南高) 【決】7-1 九電佐世保 〈九州ブロック〉 2-5 宮崎市役所
3年	〃 4-0 厳原海王	6-9 ソニー長崎(諫早)
4年	上対馬メッツ 1-0 佐護リバーズ	1-2 番クラブ(佐世保)
5年	〃 棄権 厳原レパーズ	3-1 小川仏具(諫早) 4-2 森山(北高) 【準】4-7 スカイホテル(長崎)
6年	厳原レパーズ 8-1 厳原ファイターズ	3-0 岐宿(福江) 4-2 福島(県北) 【準】1-0 エンゼルス(佐世保)
7年	佐護リバーズ 4-3 〃	2-6 飯盛クラブ(北高)
8年	上対馬クラブ 3-1 美津島マーシャルズ	2-1 有明町クラブ(南高) 1-2 西海棒球団(西彼)
9年	〃 4-0 峰ファイターズ	0-3 有明町クラブ(南高)
10年	厳原マリナーズ 8-0 美津島ホークス	2-6 KAIDEN(松浦) 6-0 奈留クラブ(福江) 2-0 九電長崎支店 【決】10-1 カートップ(東彼) 〈九州ブロック〉 1-4 佐賀玉屋
11年	美津島ポパイ 8-6 厳原ファイターズ	1-0 小川仏具クラブ(諫早) 4-5 福江クラブ
12年	〃 7-6 美津島ホークス	0-5 森山クラブ(北高)
13年	上対馬メッツ 2-1 佐賀エンゼルス	8-0 新星クラブ(島原) 6-2 アリアケジャパン(県北) 【準】1-2 長崎市水道局
14年	厳原ファイターズ 3-1 美津島フェニックス	1-6 ATMB・アトム(諫早)
15年	厳原ブラボー 14-7 厳原N・Yビーンズ (県大会が対馬開催のため4チーム出場) 厳原NYビーンズ 厳原ファイターズ 佐賀エンゼルス	0-10 あすか電機(長崎) 8-1 石田ジャガース(吉岐) 6-3 佐賀エンゼルス 【決】0-11 あすか電機 9-2 県職五島(福江) 【準】0-8 あすか電機 8-0 ATMB・アトム(諫早) 【準】3-6 厳原NYビーンズ
16年	佐賀エンゼルス 3-2 厳原ファイターズ	10-0 クラブZOO(上五島) 1-9 ドルフィンズ(諫早)
17年	制覇クラブ 10-3 峰エンゼルス	2-3 ブルーエンゼル(大村)
18年	〃 8-1 〃	◆制覇クラブも峰エンゼルスも辞退のため不参加◆
19年	峰エンゼルス 1-0 美津島クラブ	0-3 大村ベイスターズ(大村)
20年	豊玉町野球部 12-0 豊玉サンライズ	4-7 松尾総業野球クラブ(県南)
21年	厳原ファイターズ 4-3 ドンジャース	0-11 ナインズ(県北)
22年	上対馬メッツ 2-0 〃	3-2 海自・大村 1-8 オール江迎(県北)
23年	〃 6-4 豊玉サンライズ	